



⚠ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書



YZ85
YZ85LW

5PA-28199-J7

ヤマハ YZ85/YZ85LW をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：

- この車は競技専用車両です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般公道での走行はできません。必ずモトクロスコースなどの専用コースでご使用ください。
- この車は MFJ 競技ライセンス取得者、または MFJ エンジョイ会員を対象にして作られています。ライセンスを取得せずに車を使用すると、トラブルなどの原因となる恐れがありますので、使用しないでください。
- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けずに、車を操作しないでください。

保護者の方へ重要なお知らせ：

この車は玩具ではありません。お子様を車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子様によく理解させ、またお子様を補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が1人1人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子様の車の使いかたを監督してください。お子様が安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。

モーターサイクルは2輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。

守ってください：

- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要ときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU45990

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注 意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要 点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10031

警 告

車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14351

警 告

この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品と仕様は、予告なしに変更されることがあります。

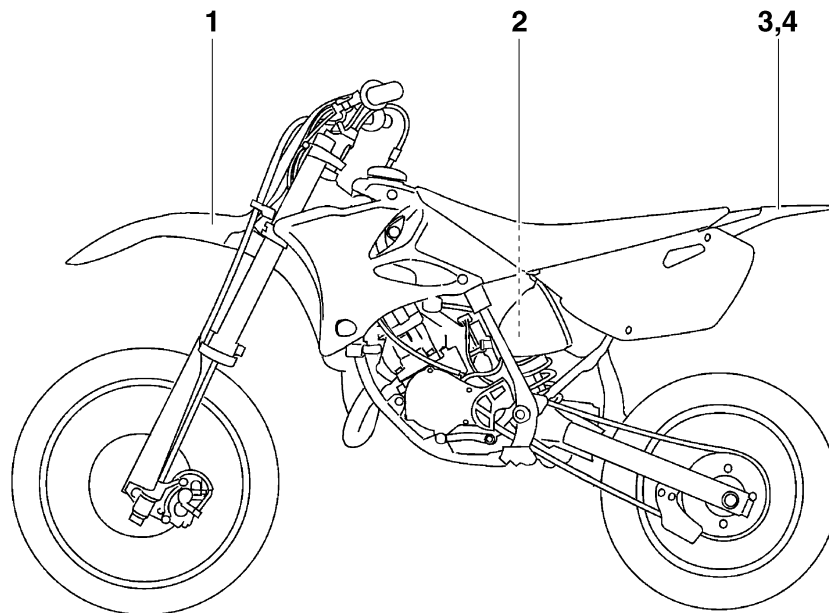
重要項目ラベルの貼り付け位置 ... 1-1	運転操作 6-1	ケーブルの点検と注油 7-22
安全運転のために 2-1	エンジン始動 （エンジンが冷えているとき） 6-1	スロットルグリップおよび ケーブルの点検と注油 7-22
各部の名称 3-1	エンジン始動 （エンジンが暖まっているとき） 6-2	ブレーキおよびクラッチレバーの 点検と注油 7-22
左側面 3-1	ギヤチェンジのしかた 6-2	ブレーキペダルの点検と注油 7-23
右側面 3-2	ならし運転 6-3	リヤサスペンションの注油 7-23
運転装置と計器類 3-3	駐車 6-4	スイングアームピボットの注油 7-24
各部の取り扱いと操作 4-1	点検整備 7-1	フロントフォークの点検 7-24
ハンドルスイッチ 4-1	定期点検整備項目（一般）と給油 7-2	ステアリングの点検 7-25
クラッチレバー 4-1	スパークプラグの点検 7-8	ホイールベアリングの点検 7-25
シフトペダル 4-1	トランスミッションオイル 7-9	車体の支持 7-25
ブレーキレバー 4-2	冷却水 7-10	フロントホイール 7-26
ブレーキペダル 4-2	エアクリーナーエレメントの清掃 ... 7-12	リヤホイール 7-26
フューエルタンクキャップ 4-3	キャブレターの調整 7-13	こんなときは 7-28
燃料 4-3	エンジンアイドリング回転数の 調整 7-14	トラブルシューティングチャート ... 7-29
フューエルタンクブリーザー ホース 4-5	スロットルケーブルの遊びの調整 ... 7-14	お車の手入れと保管 8-1
フューエルコック 4-5	タイヤ 7-15	保管のしかた 8-2
チョークノブ 4-6	スポークホイール 7-16	アフターケア用品について 8-3
キックスターター 4-6	アクセサリーと交換部品 7-16	製品仕様 9-1
シート 4-6	クラッチレバーの遊びの調整 7-17	ユーザー情報 10-1
フロントフォークの調整 4-7	フロントブレーキレバーの 遊びの点検 7-17	ID 番号 10-1
フロントフォークのエア抜き 4-8	シフトペダルの点検 7-18	二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
リヤクッションの調整 4-9	フロントおよび リヤブレーキパッドの点検 7-18	サービスマニュアル（別売）の 紹介 10-2
取り外し式サイドスタンド 4-11	ブレーキ液量の点検 7-19	
日常点検 5-1	ブレーキ液の交換 7-20	
走行前点検リスト 5-2	ドライブチェーン 7-20	
	ドライブチェーンの給油 7-21	

重要項目ラベルの貼り付け位置

JAU41371

車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。

1



重要項目ラベルの貼り付け位置

1

無鉛プレミアムガソリンとオイルの
混合燃料のみ使ってください。

3XJ-2415E-C1

3

警 告

運転者以外の人が同乗すると、車の安定を
失う原因となります。
安定を失うと衝突や転倒などの事故となる
ことがあります。
2人乗りはしないでください。

4LB-2151H-02

2

警 告

高圧窒素ガス入りです。
取扱いを誤ると爆発する恐れがあります。
●取扱説明書をよく読んでください。
●火中への投入、穴あけ、分解はしないでください。

4AA-22259-50

4

警 告

- ご使用前には必ず取扱説明書とラベルをよく読んでください。
- この車は1人乗りです。
運転者以外に人を同乗させると安定を失い危険です。
- この車は一般公道では走れません。
一般公道を走行するために必要な保安部品を装備していません。
- 正しい服装で運転してください。
ヘルメット、ゴーグル等の保護具を着用してください。

5PA-2118K-20

1

安全運転のために

JAUJ4162

安全運転

- 走行前には必ず点検を行ってください。念入りの点検は事故防止に役立ちます。
- この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定を受けていませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。必ずモトクロスコースなどの専用コースでご使用ください。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
 - ・ ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
 - ・ ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。

- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬物を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり、軽減させるためには、ヘルメットの着用が非常に重要です。

- 必ず、認定されたヘルメットを着用してください。
- フェースシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、スポン、グローブなどを着用してください。
- だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにかからり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 運転中、あるいは運転後、エンジンやマフラー、エキゾーストパイプにさわらないでください。高温のため、ヤケドをするおそれがあります。必ず身体を保護する服を着用し、足や足首を覆ってください。

改造

改造は競技団体および出場クラスで定められているレギュレーション範囲で行ってください。

荷物の積載とアクセサリ

アクセサリーの装着によって、車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリーを装着するときは、十分に注意してください。また、アクセサリーを取り付けた車両を運転するときは、十分に注意してください。以下は車両にアクセサリーを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

積載

- アクセサリーの重量はできるだけ、車両より軽いものにしてください。なるべく車両の左右均等に重量を配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリーは、運転前に車両に確実に取り付けるようにしてください。アクセサリーの取り付け状態をこまめに点検してください。
- ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリーや重量のあるアクセサリーを取り付けしないでください。

アクセサリ

ヤマハ純正アクセサリーは、この車両用に特別に設計されたものです。ヤマハは入手可能な他社製の全てのアクセサリーのテストをすることができません。そのため、ヤマハ製

でないアクセサリーの適切な選択、取り付け、使用に対して、ライダーは個人的に責任を負わなければなりません。アクセサリーの選択、取り付けには十分な注意を払ってください。

「積載」のガイドラインに加え、アクセサリーを装着するにあたり以下のガイドラインに留意してください。

- モーターサイクルの性能を損なうアクセサリーは取り付けしないでください。アクセサリーを使用する前に、地上高、バンク角を低下させたり、サスペンションの動き、ハンドル切れ角や操縦性に制約を与えていないかどうか、念入りに点検してください。
- ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリーを取り付けると、重量配分が悪くなったり、空気力学上の変化により、操縦が不安定になるおそれがあります。ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリーを装着する場合、できるだけ軽量、最小にするようにしてください。
- 大きなアクセサリーは車両の安定性に空気力学上、重大な影響を及ぼします。風の影響で車両が持ち上げられたり、横風により安定性を失うおそれがあります。
- アクセサリーはライダーの正常なライディングポジションを妨げることもあります。不適切なポジションはライダーの自由な動きを妨げたり、操縦安定

性を損なわせるおそれがあります。そのため、そのようなアクセサリーはおすすめしません。

- 電装品を取り付けるときは注意してください。電装品が車両の電装システムの容量を超えた場合、電気的な不良が発生し、エンジンパワーの損失を招くおそれがあります。

ガソリンと排気ガス

- ガソリンには強い引火性があります。
 - 常に、オイルとガソリンを混合した新鮮な混合燃料を使用してください。
 - 給油するときは、常にエンジンを止めてください。
 - 給油するときは、ガソリンがエンジンやエキゾーストパイプ、マフラーにこぼれないように注意してください。
 - 喫煙中や火気のあるところでは、絶対に給油しないでください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所で車両を運転してください。
- 車両から離れるときは、エンジンを止めてください。車両を駐車するときは、以下の点に注意してください。
 - エンジンやエキゾーストパイプ、マフラーは高温になっています。歩行者や子供が触れないような場所に駐車してください。

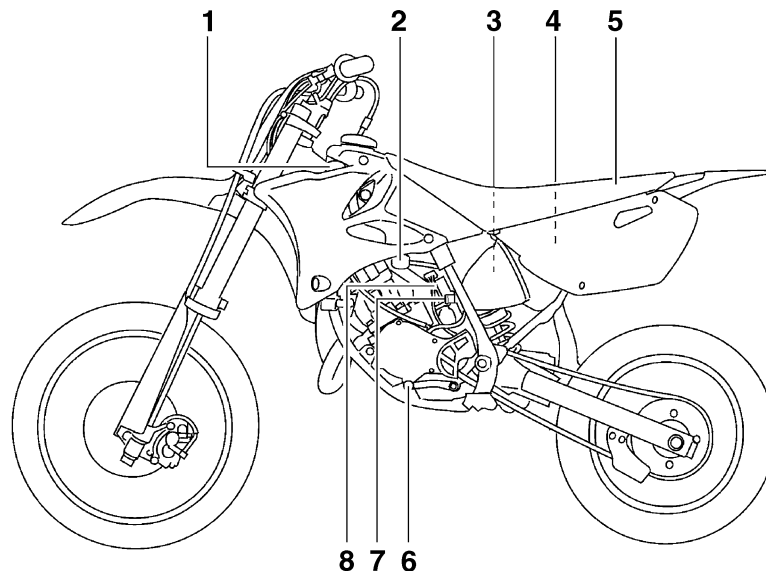
- 坂道や軟弱な地面には駐車しないでください。転倒するおそれがあります。
- 火気（例えば石油ストーブ、直火）の近くに駐車しないでください。引火するおそれがあります。
- 車両を運搬するときは垂直にし、フューエルコックを OFF にしてください。車両が傾くと、キャブレターやフューエルタンクからガソリンが漏れることがあります。
- 万一、ガソリンを飲んでしまったり、気化したガソリンを大量に吸い込んだり、ガソリンが目に入ったときは、ただちに医師の手当てを受けてください。ガソリンが皮膚や衣服にかかったときは、すぐに石鹸と水で洗い、着替えてください。

各部の名称

JAU10410

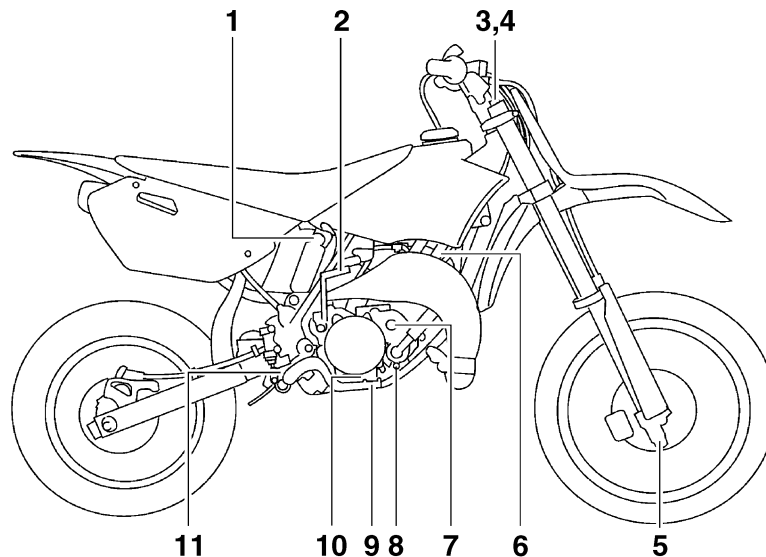
左側面

3



1. ラジエターキャップ (P7-10)
2. フューエルコック (P4-5)
3. リヤクッション・スプリングプリロードアジャスター (P4-9)
4. エアクリナーエレメント (P 7-12)
5. シート (P4-6)
6. シフトペダル (P4-1/6-2)
7. スロットルストップスクリュー (P7-14)
8. チョークノブ (P4-6)

右側面



1. リヤクッション圧側減衰力アジャスター (P4-9)
2. キックスターター (P4-6)
3. フロントフォーク伸側減衰力アジャスター (P4-7)
4. ブリードスクリュー (P 4-8)
5. フロントフォーク圧側減衰力アジャスター (P4-7)
6. スパークプラグキャップ (P7-8)
7. オイル注入口キャップ (P7-9)
8. 冷却水ドレンボルト (P7-11)
9. ブレーキペダル (P 4-2)

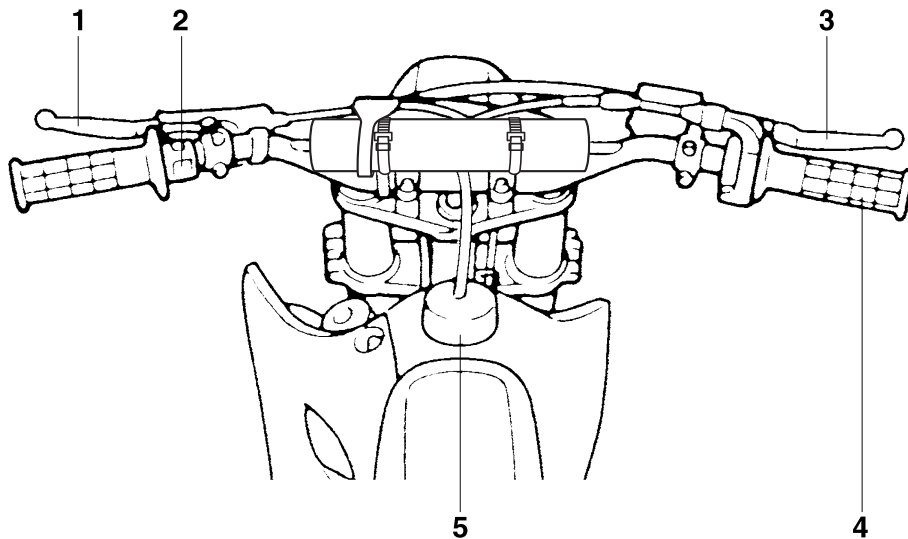
10. トランスミッションオイルドレンボルト (P7-9)
11. リヤクッション伸側減衰力アジャスター (P4-9)

各部の名称

JAU10430

運転装置と計器類

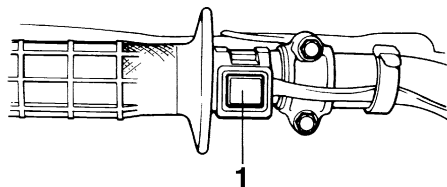
3



1. クラッチレバー (P7-17)
2. エンジnstopボタン (P 4-1)
3. ブレーキレバー (P4-2)
4. スロットルグリップ (P7-14)
5. フューエルタンクキャップ (P4-3)

ハンドルスイッチ

JAU40660



1. エンジnstopボタン “ENGINE STOP”

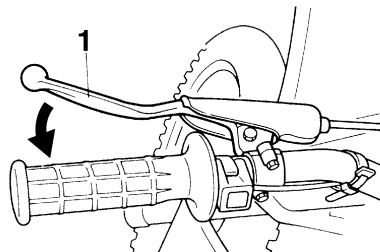
エンジンストップボタン “ENGINE STOP”
JAU12670
 非常時に、エンジンをすぐに停止させるボタンです。ボタンを押すとエンジンは停止します。

要 点

ボタンは、エンジンが停止するまで押し続けてください。

クラッチレバー

JAU12850

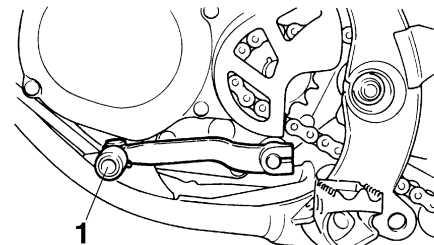


1. クラッチレバー

クラッチレバーは、ハンドルの左グリップ部に取り付けられています。クラッチを切るには、レバーを握ります。クラッチを繋げるにはレバーを放します。レバーを握るときは早く、放すときは、ゆっくりと行うとスムーズなクラッチ操作ができます。

シフトペダル

JAU12870



1. シフトペダル

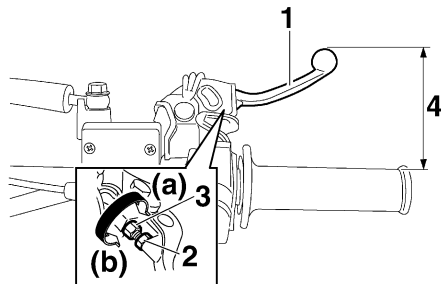
シフトペダルはエンジンの左側にあり、クラッチレバーと合わせてこの車に装備されている常時かみ合式の6段変速機を操作します。

各部の取り扱いと操作

JAU41261

ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右グリップ部に取り付けられています。前輪ブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。



1. ブレーキレバー
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 握り幅

ブレーキレバーには握り幅調整ボルトが付いています。ブレーキレバーとグリップとの距離の調整は以下に行います。

1. ロックナットをゆるめます。
2. レバーをハンドルグリップから遠ざける方向に押しながら、握り幅を大きくするときは、アジャスターを (a) 方向に回します。握り幅を小さくするときは、アジャスターを (b) 方向に回します。

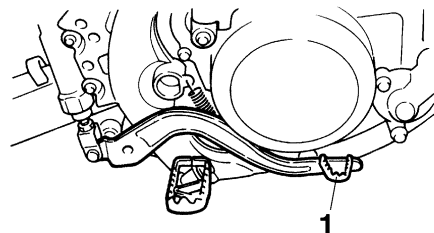
ブレーキレバーの握り幅：

最小：
76 mm
標準：
95 mm
最大：
97 mm

3. ロックナットを締め付けます。

JAU12941

ブレーキペダル



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。リアブレーキをかけるには、ブレーキペダル踏み込みます。

フューエルタンクキャップ

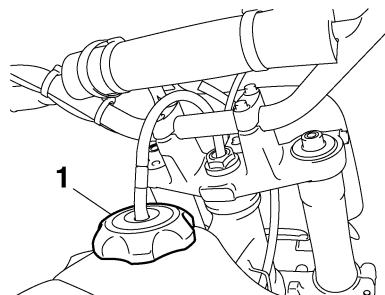
JAU13182

JWA12171

警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを反時計方向に回して、取り外します。

フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

JWA11091

警告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

燃料

この車はガソリンとエンジンオイルの混合燃料を使用するように設計されています。常に乗車前に、ガソリンとエンジンオイルを容器で混合してから、フューエルタンクに給油してください。

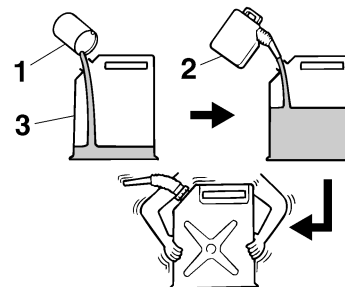
JCA15601

注意

常に新しいガソリンを使用し、乗車のすぐ前にガソリンとオイルの混合を行って給油してください。混合してから数時間経った混合燃料は使用しないでください。

ガソリンとエンジンオイルの混合のしかた

きれいな容器にヤマループ 2-R を注ぎ入れ、続けてガソリンを加えます。容器を左右に振ってガソリンをよく混ぜます。



1. ヤマループ 2-R
2. ガソリン
3. 容器

各部の取り扱いと操作

指定燃料：

無鉛プレミアムガソリン

推奨オイル：

(9-1 ページ参照)

タンク容量：

5.0 L

混合比（ガソリンとオイル）：

ならし運転期間：15:1

ならし運転終了後：30:1

JCA15590

注意

無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンの使用はピストンリング、排気系統などのエンジン部品に損傷を生じるおそれがあります。

この車のエンジンは、無鉛プレミアムガソリンを使用するよう設計されています。もしノッキング（またはピンギング）が起きた場合は、違う銘柄のガソリンを使ってみてください。

推奨オイルがないときは、同等のオイルを使用してください。

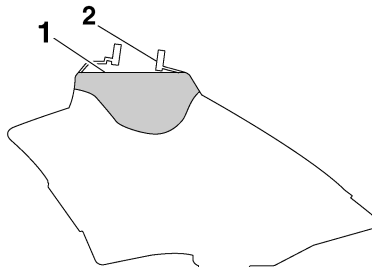
JCA15551

注意

エンジンの性能を最高に発揮させるため、常に同じタイプのエンジンオイルを使用し、2種類の違う銘柄のエンジンオイルを混ぜないでください。

違う銘柄のエンジンオイルを使用する場合、フューエルタンクとキャブレターのフロートチャンバーから古い混合燃料を抜き取ってから新しい銘柄を使用してください。

フューエルタンクへの給油のしかた



1. 給油限度
2. フィラーチューブ

フューエルタンクに十分な燃料が入っているか、確認してください。図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA108B1

警告

- 給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。
- 高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。

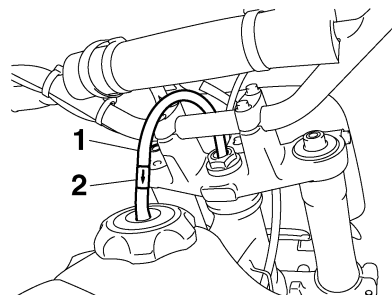
JCA10071

注意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

フューエルタンクブリーザーホース

JAU41360



1. フューエルタンクブリーザーホース
2. ワンウェイバルブ

乗車の前に：

- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検し、ひび、損傷がある場合は交換します。
- フューエルタンクブリーザーホースの端部がつまっていないか確認し、必要に応じて清掃してください。

要 点

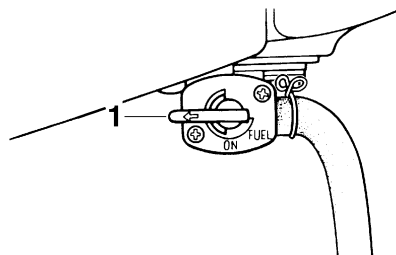
フューエルタンクブリーザーホースが外れたときは、ワンウェイバルブの矢印が図のように下向きになるようにフューエルタンクキャップに取り付けてください。

フューエルコック

JAU41280

フューエルコックは、フューエルタンクからキャブレターへと燃料をろ過しながら供給します。
このフューエルコックには2つの位置があります。

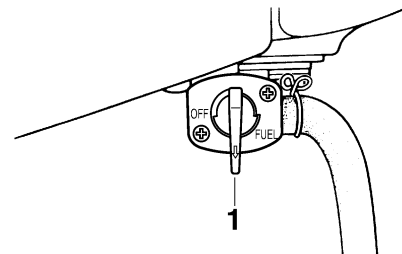
OFF



1. "OFF"

駐車時のレバー位置です。ガソリンは流れません。エンジンがかかっていないときはレバーを常にこの位置にしてください。

ON



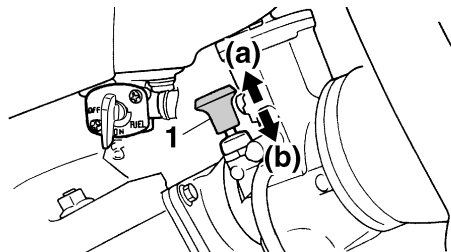
1. "ON"

始動および走行時のレバー位置で、ガソリンが流れます。

各部の取り扱いと操作

JAU13640

チョークノブ

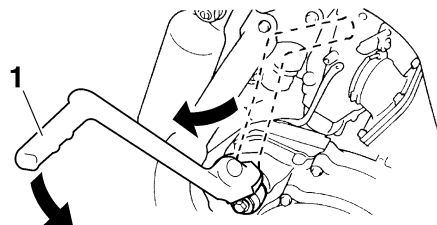


1. チョークノブ

エンジンが冷えているときは、チョークを使用すると始動が容易になります。
ノブを (a) 方向に引き、チョークをオンにします。
ノブを (b) 方向に戻し、チョークをオフにします。

JAU13650

キックスターター



1. キックスターターレバー

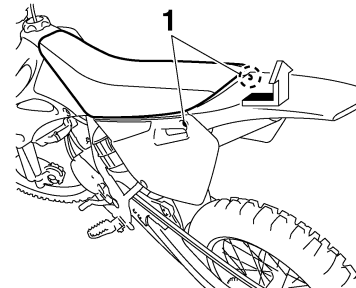
キックスターターレバーを出し、力強くキックします。この車はギヤの位置にかかわらず、クラッチレバーを握れば始動できるプライマリーキック方式を採用していますが、ギヤをニュートラルにしてからキックしてください。

JAU46280

シート

シートの取り外しかた

ボルトを外し、シートを取り外します。

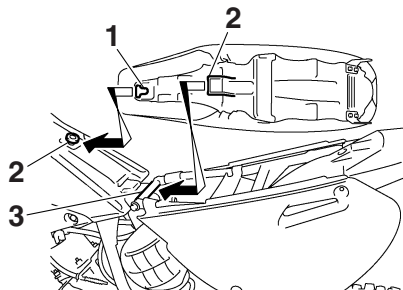


1. ボルト

シートの取り付けかた

1. 図のようにシート前部の溝をフューエルタンク上の突起に合わせ、シートの突起をホルダーに差し込みます。

各部の取り扱いと操作



1. 溝
2. 突起
3. ホルダー

2. シートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

要 点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

フロントフォークの調整

フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

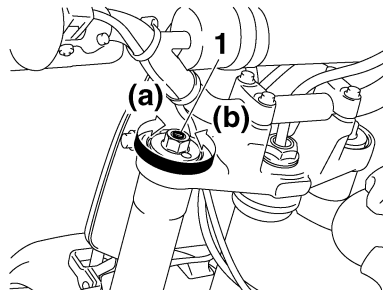
JAU41471

JWA11480

⚠ 警 告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

伸側減衰力



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

20 段

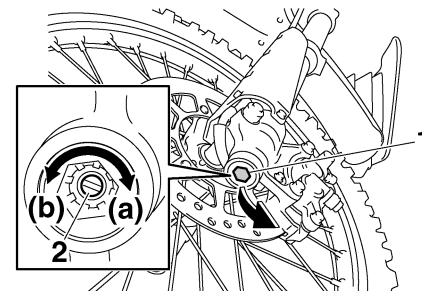
標準：

7 段

最大（ハード）：

1 段

圧側減衰力



1. キャップ
2. 圧側減衰力アジャスター

1. ゴムキャップをフロントフォークから取り外します。

2. 圧側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

各部の取り扱いと操作

(アジャスターを (a) 方向にいっぱいに戻してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段階です。)

圧側減衰力：

最小 (ソフト)：

20 段

標準：

YZ85：10 段

YZ85LW：9 段

最大 (ハード)：

1 段

3. キャップを取り付けます。

JCA11910

注意

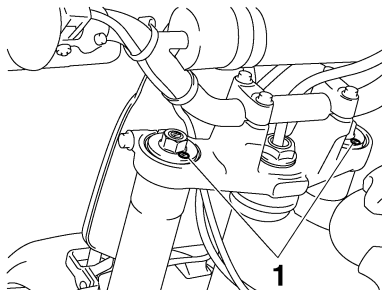
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

フロントフォークのエア抜き

JAU14791



1. ブリードスクリュー

走行により、フロントフォーク内の温度が上がると、フォーク内の空気圧が上昇し、フロントサスペンションは固くなります。このような場合、以下のようにしてフロントフォークのエア抜きを行います。

1. エンジンの下に適当なスタンドを置き、フロントホイールを持ち上げます。

要 点

フロントフォークのエア抜きの時、車前部に荷重がないようにします。

2. ブリードスクリューを外し、それぞれのフォークからエアを放出させます。

警告

エア抜きは左右のフロントフォークに対して行ってください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

3. ブリードスクリューを取り付けます。

JWA10200

リヤクッションの調整

JAU41332

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

注意

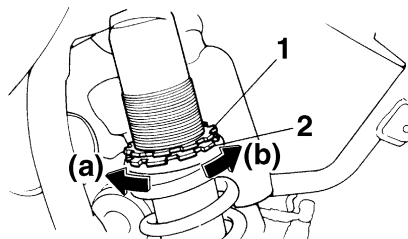
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JCA10101

スプリングプリロード

スプリングプリロードは、以下の手順で調整を行ってください。

1. ロックナットをゆるめます。



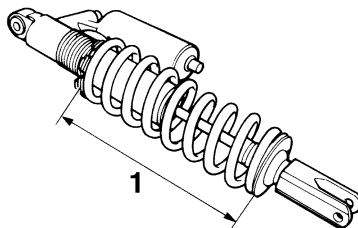
1. ロックナット
2. スプリングプリロードアジャスター

2. スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリング

プリロードを小さくし、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要点

- この調整に使うスペシャルレンチはヤマハ販売店で入手できます。
- スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは小さくなり、セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは大きくなります。アジャスターを 1 回転することにより、セット長 A は 1.5 mm ずつ変化します。



1. セット長 A

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

セット長 A = 218.5 mm

標準：YZ85

セット長 A = 215.0 mm

標準：YZ85LW

セット長 A = 207.0 mm

最大（ハード）：

セット長 A = 202.5 mm

3. ロックナットを締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：

35 Nm (3.5 m·kgf)

JCA10121

注意

ロックナットはアジャスターにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締め付けてください。

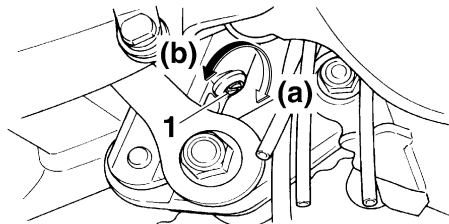
伸側減衰力

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱め、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

各部の取り扱いと操作

JWA10221



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

20 段

標準：YZ85

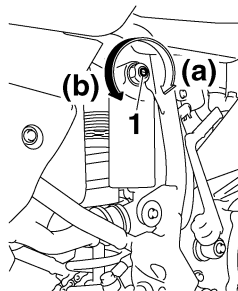
6 段

標準：YZ85LW

7 段

最大（ハード）

1 段



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）

20 段

標準：YZ85

9 段

標準：YZ85LW

7 段

最大（ハード）：

1 段

警告

リヤクッションユニットには高压窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店で実施してください。

圧側減衰力

圧側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱め、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

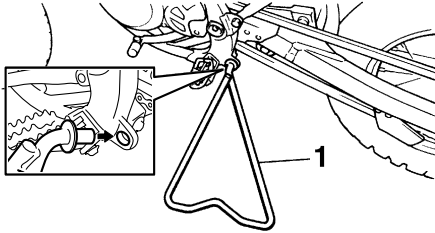
(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから (b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU41381

取り外し式サイドスタンド



1. サイドスタンド

この車は取り外し式サイドスタンドを装備しています。

要 点

車両を支えるときや、運搬するときにはサイドスタンドが確実に装着されているか確認してください。

JWA14601

⚠ 警 告

- サイドスタンドを立てているとき、車体に余分な力をかけないでください。
- 発進前には常にサイドスタンドを取り外してください。

日常点検

JAU42181

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12031

警 告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

5

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	・フューエルタンクの残量を点検します。 ・常に新鮮な混合ガソリンを使用します。 ・フューエルホースに漏れがないか点検します。	4-3
トランスミッションオイル	・オイル量を点検します。 ・必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。	7-9
冷却水	・冷却水量を点検します。 ・必要に応じて指定の冷却水を規定量まで補充します。 ・冷却システムに漏れがないか点検します。	7-10
前輪ブレーキ	・作動を点検します。 ・レバーの操作具合が柔らかいか、スポンジを握るようなフワフワの感覚であれば、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを行ってください。 ・ブレーキパッドの摩耗を点検します。 ・必要に応じて交換します。 ・ブレーキ液の量を点検します。 ・必要に応じて指定のブレーキ液を規定の量まで補充します。 ・油圧系統に漏れがないか点検します。	7-18, 7-19
後輪ブレーキ	・作動を点検します。 ・ペダルの操作具合が柔らかいか、スポンジを握るようなフワフワの感覚であれば、ヤマハ販売店で油圧系統のエア抜きを行ってください。 ・ブレーキパッドの摩耗を点検します。 ・必要に応じて交換します。 ・ブレーキ液の量を点検します。 ・必要に応じて指定のブレーキ液を規定の量まで補充します。 ・油圧系統に漏れがないか点検します。	7-18, 7-19
クラッチ	・作動を点検します。 ・レバーの遊びを点検します。 ・必要に応じて調整します。 ・必要に応じてケーブルに注油します。	7-17
スロットルグリップ	・作動がスムーズであるか点検します。 ・ケーブルの遊びを点検します。 ・必要に応じて、ヤマハ販売店へケーブルの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	7-14, 7-22

日常点検

項目	点検、整備内容	参照ページ
ドライブチェーン	- チェーンのたわみ量を点検します。 - 必要に応じて調整します。 - チェーンの状態を点検します。 - ME-180 チェーンオイルを給油します。	7-20, 7-21
ホイールとタイヤ	- 損傷がないか点検します。 - タイヤの状態と溝の深さを点検します。 - 空気圧を点検します。 - 必要に応じて調整、交換します。 - 必要に応じてスポークのゆるみ、締め付けを点検します。	7-15, 7-16
シフトペダル	- 作動が滑らかであるか点検します。 - 必要に応じて調整します。	7-18
ブレーキペダル	- 作動が滑らかであるか点検します。 - 必要に応じてペダルの取り付け部分に注油します。	7-23
ステアリング	ハンドルバーが滑らかに動くか、がたつきがないか点検します。	7-25
フロントフォークとリヤクッション	作動が滑らかか、オイル漏れがないかを点検します。	4-7, 4-8, 4-9, 7-24
車体の締付具合	- ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 - 必要に応じて締め付けます。	—
可動部とケーブル	- ケーブル類が滑らかに動くか点検します。 - ハンドルバーを回したときやフロントフォークが上下したときに、ケーブル類がからまないか点検します。 - 必要に応じて可動部やケーブルに注油します。	7-22, 7-22, 7-24, 7-23
排気系統	- エキゾーストパイプがきちんと締め付けられているか、亀裂がないか点検します。 - 漏れがないか点検します。	—
点火系統	全ての配線やケーブル類が正しく接続されているか点検します。	7-8

JAU46040

JWA14610



警告

- この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所でエンジンを始動してください。
- 発進の前に、サイドスタンドを取り外してください。サイドスタンドを取り外さないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり車両のバランスを損ない、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。

JAU41304

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. ギヤをニュートラルにします。
3. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。（4-6 ページ参照）
4. キックして、エンジンを始動させます。

JCA15991

注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ふかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

5. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

JCA15670

注意

- チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。

要点

チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルに正常に反応すれば、エンジンは暖まっています。

運転操作

JAU16660

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

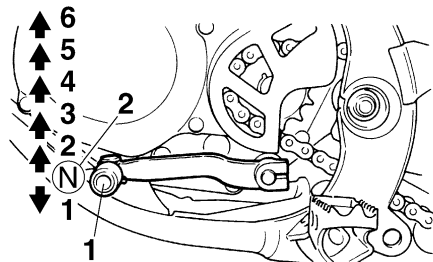
エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えているときのエンジン始動と同じ手順で行います。その代わりに、スロットルを少し開けた状態でエンジンを始動させます。

要 点

数回キックしてもエンジンが始動しない場合、スロットルを 1/4 から 1/2 開けて再度試みます。

JAU16671

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。
ギヤの位置は図に示すようになっています。

要 点

ニュートラルにシフトするには、繰り返しシフトダウンして一番下の位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10260

注 意

- ギヤがニュートラルの位置の状態でも、エンジンをかけないまま長時間惰性で走らせないでください。また、長い距離を牽引しないでください。トランスミッションは

エンジンが回転している時のみ、適切に潤滑されます。潤滑不足によりトランスミッションに損傷を与えることがあります。

- ギヤを変えるときは、エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンの損傷を防ぐため、必ずクラッチレバーを握ってください。エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンは、クラッチを使用しない状態でのシフト操作に耐えられるようには設計されていません。

JAU16690

発進と加速のしかた

1. クラッチレバーを握ります。
2. ギヤを 1 速に入れます。
3. 少しづつスロットルを開け、ゆっくりとクラッチレバーを放して発進します。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。すばやく、クラッチレバーを握ります。
5. ギヤを 2 速に入れます。（ギヤがニュートラルに入らないように注意してください。）
6. 半分スロットルを開け、徐々にクラッチレバーを放します。
7. 次のギヤに変速するときは同じ手順で行ってください。

JAU16710

減速のしかた

1. スロットルを完全に閉じます。フロントブレーキとリヤブレーキを同時に徐々にかけます。

2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

JAU41503

ならし運転

1. エンジンを始動する前に、以下のならし運転時期の混合比の燃料をフューエルタンクに入れてください。

推奨オイル：

9-1 ページ参照

混合比（ガソリンとオイル）：

15:1

2. エンジンを始動します。エンジンストップボタンの機能の点検を行います。(4-1 ページ参照)
3. 5～8 分間スロットルを適度に開け、低速ギヤで走行します。エンジンを停止し、スパークプラグの状態を点検します。(7-8 ページ参照) ならし運転中のスパークプラグは、黒く湿った状態になっています。
4. エンジンを冷やします。エンジンを再始動し、手順 3 と同様に走行します。それから短い間隔で高いギヤにシフトし、フルスロットルのレスポンスを点検します。エンジンを停止し、スパークプラグを点検します。
5. 再びエンジンを冷やした後、再始動して 5 分以上走行させます。フルスロットルかつ高速ギヤを使っても構いませんが、フルスロットルにし続けるのは避けてください。エンジンを停止し、再度スパークプラグの状態を点検します。

6. エンジンを冷やし、シリンダーヘッドとシリンダーを取り外し、ピストンとシリンダーを点検します。ピストンの焼き付き跡を # 600 のサンドペーパーで取り除きます。全ての部品を清掃し、シリンダーとシリンダーヘッドを注意深く組み付けます。

JWA10321

警告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

7. ならし運転用の混合燃料をフューエルタンクから抜き、指定の混合比の燃料を給油します。(4-3 ページ参照)
 8. エンジンを再始動し、全域を点検するように走行します。エンジンを停止し、スパークプラグの状態を点検します。再始動し、10～15 分以上走行します。以上で通常走行できる準備が整いました。
- ならし運転が終了したら、部品のゆるみ、オイル漏れ、その他の問題がないか車両全体を点検します。念入りに点検し、隅々まで（特にケーブル類、ドライブチェーンの張り、スポークのゆるみなど）調整します。加えて、全ての部品の取り付け状態、ゆるみを点検し、必要であれば増し締めします。

運転操作

JCA15560

注意

- 以下の部品を交換した場合、必ずならし運転を行ってください。
シリンダーまたはクランクシャフト：
約 1 時間のならし運転が必要です。
ピストン、リングまたはトランスミッションのギヤ：
これらの部品はスロットル開度を半分以下で約 30 分のならしが必要です。ならし期間中、エンジンの調子に注意してください。
- エンジンのならし運転中に何らかのトラブルが発生した場合、ただちにヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU17191

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、フューエルコックを OFF にします。

JWA10311

警告

- エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそうしたものに触れないような場所に駐車してください。
- 斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。

JAU17241

安全を保つことは所有者のつとめです。定期的な点検、調整や注油によって車の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整と注油の重要なポイントについて、以下のページで説明します。

「定期点検整備項目（一般）と給油」に示した時期は、通常の走行条件での一般的な指針と考えてください。気象、地形、地理的条件や個々の使用方法によっては、整備の時期を早める必要があります。

JWA10321



警告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

点検整備

JAU41796

定期点検整備項目（一般）と給油

以下の表は、一般的な点検整備および給油の目安を示しています。天候、地形、地理的条件など個々の使用状態に応じて、点検整備と給油の時期を変更する必要があることに留意してください。車の点検整備、給油の時期をいつにしたらよいかわからない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

- 7 レース目以降は、「毎レースごと」の点検整備時期を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

NO.	項目	日常	ならし 運転後	毎レース ごと	3レース ごと	5レース ごと	必要に 応じて
1	* ピストン	- カーボンが堆積していないか、また亀裂や損傷がないか点検します。 - 清掃します。	√	√			
		交換します。				√	√
2	* ピストンリング	ピストンリング合口のすき間や、リングが損傷していないかを点検します。	√	√			
		交換します。			√		√
3	* ピストンピンと 小端ベアリング	ピストンピンと小端ベアリングが損傷していないか点検します。		√			
		交換します。					√
4	* シリンダーヘッド	- シリンダーヘッドにカーボンが堆積していないか点検します。 - 清掃します。	√	√			
		- シリンダーヘッドガスケットの損傷を点検します。 - 必要に応じてシリンダーヘッドナットを締め付けます。	√	√			
		シリンダーヘッドガスケットを交換します。					√

NO.	項目	日常	ならし 運転後	毎レース ごと	3レース ごと	5レース ごと	必要に 応じて
5	* シリンダーヘッド	- シリンダーに焼き付き跡や摩耗がないか点検します。 - 清掃します。	√	√			
		交換します。					√
6	* クラッチ	- クラッチハウジング、フリクションプレート、クラッチプレート、クラッチスプリングに摩耗や損傷がないか点検します。 - 調整します。	√	√			
		交換します。					√
7	* トランスミッション	トランスミッションオイルを交換します。	√			√	
		トランスミッションに損傷がないか点検します。					√
		ベアリングを交換します。					√
8	* シフトフォーク、ガイドバー、シフトカム	- 全ての構成部品に摩耗や損傷がないか点検します。 - 必要に応じて交換します。					√
9	* ローターナット（フライホイールマグネター）	締め付けます。	√			√	
10	* キックスターターシステム	- アイドルギヤに損傷がないか点検します。 - 必要に応じて交換します。					√
11	* 排気系統	エキゾーストパイプとマフラーにカーボンが堆積していないか点検します。	√	√			
		清掃します。				√	
12	* クランクシャフト	クランクシャフトにカーボンが堆積していないか、損傷がないか点検します。				√	√
		清掃します。				√	√

点検整備

NO.	項目	日常	ならし 運転後	毎レース ごと	3レース ごと	5レース ごと	必要に 応じて
13	* キャブレター	• キャブレターのセッティングと、詰まりがないかを点検します。	√	√			
		• 調整、清掃します。	√	√			
14	スパークプラグ	• 状態を点検します。 • 清掃とギャップ調整を行います。	√	√			
		• 交換します。					√
15	* ドライブチェーン	• チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 • 調整し、ヤマハ ME スーパーチェーンオイルまたは同等品を給油します。	√	√			
		• 交換します。					√
16	* 冷却システム	• 冷却水の量と漏れを点検します。	√	√			
		• ホースのひび割れ、損傷がないか点検します。		√			
		• ラジエターキャップスプリングの作動を点検します。					√
		• クーラントを交換します。	2年毎				√
17	* 車体各部の締め付け	• 車体各部が正しく締め付けられているか点検します。 • 必要に応じて、増し締め、締め直しをします。	√	√			
18	* エアークリーナー エレメント	• 清掃します。	√	√			
		• 交換します。					√
19	* フレーム	• 清掃し、損傷していないか点検します。	√	√			
20	* 燃料系統	• 清掃し、漏れがないか点検します。	√		√		

NO.	項目	日常	ならし 運転後	毎レース ごと	3レース ごと	5レース ごと	必要に 応じて
21	* ブレーキ	- レバーの位置とペダルの高さを点検します。 - 取り付け部に注油します。 - ブレーキディスク表面を点検します。 - ブレーキ液の量と漏れを点検します。 - ブレーキディスクボルト、キャリパーボルト、マスターシリンダーボルト、ユニオンボルトを増し締めます。	√	√			
		• ブレーキパッドを交換します。					√
		• ブレーキ液を交換します。	2年毎				√
22	* フロントフォーク	- 作動とオイル漏れがないかを点検します。 - 必要に応じて調整します。 - ダストシールを清掃し、ヤマハグリースBを塗布します。	√	√			
		• フォークオイルを交換します。	√			√	
		• オイルシールを交換します。					√
23	* リヤクッション	- 作動を点検し、調整します。 - 必要に応じて締め付けます。	√	√			
		• ヤマハグリースBを注油します。			√		√ (洗車後 または雨 天の走行 後)

点検整備

NO.	項目	日常	ならし 運転後	毎レース ごと	3レース ごと	5レース ごと	必要に 応じて
24	* ドライブチェーンローラーとサポートガイド	- 摩耗や損傷がないか点検します。 - 必要に応じて交換します。					√
25	* リヤサスペンション	- 状態を点検し、必要に応じて締め付けます。 - ヤマハグリースBを注油します。	√	√			
26	* ステアリングヘッド	- 作動、遊びを点検し、必要であれば増し締めします。 - 清掃し、ヤマハグリースBを注油します。 - ベアリングを交換します。	√	√		√	√
27	* タイヤとホイール	- タイヤ空気圧、ホイールの振れ、スポークの緩み、タイヤの摩耗状態を点検します。 - 必要に応じてスプロケットボルトを締め付けます。 - ホイールベアリングのがたを点検します。 - ホイールベアリングにヤマハグリースBを注油します。 - ホイールベアリングを交換します。	√	√	√	√	√
28	* 可動部、ケーブル類	注油します。	√	√			
29	* スロットルグリップハウジングとケーブル	- 作動と遊びの量を点検します。 - 必要に応じてスロットルケーブルの遊びを調整します。 - スロットルハウジングとケーブルに注油します。	√	√			

JAU42011

要 点

- 油圧式ブレーキの点検整備
 - ・定期的に点検を行い、必要に応じてブレーキ液を補充してください。

- マスターシリンダーとキャリパー内のパーツ、およびブレーキ液は2年毎に交換してください。
 - ブレーキホースは4年毎、または亀裂や損傷がある場合は交換してください。
-

点検整備

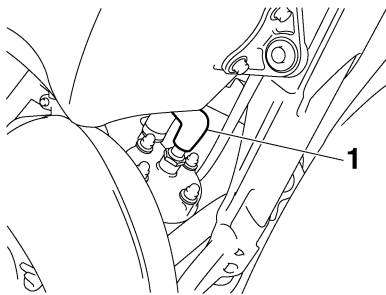
JAU44760

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつですが、簡単に点検することができます。熱や堆積物のため、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進みますから、スパークプラグは必ず「定期点検整備項目と給油」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態が分かることもあります。

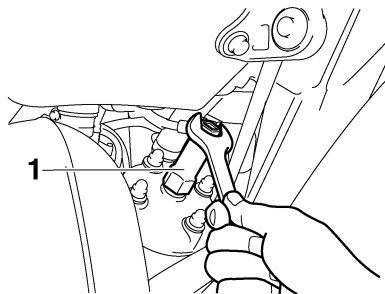
スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはお買い上げのヤマハ販売店で求められます。



1. プラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイシが淡いキツネ色になっているかを点検します。(淡いキツネ色に焼けているのが理想です。)

要 点

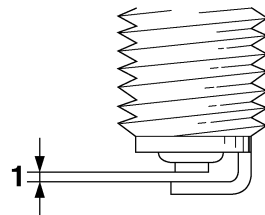
スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボン、その他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/BR10EG

スパークプラグの取り付けかた

1. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.5-0.6 mm

2. スパークプラグガasketの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
3. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
20 Nm (2.0 m·kgf)

JAU41443

要 点

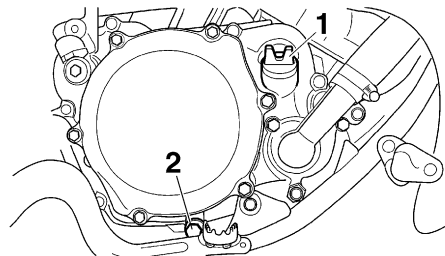
トルクレンチが利用できない場合は、スパークプラグを指で締め付け、さらにレンチで1/4から1/2回転させてください。ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けてください。

4. スパークプラグキャップを取り付けます。

トランスミッションオイル

トランスミッションオイルの漏れがないか、走行することに点検してください。もし漏れがあった場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。また、トランスミッションオイルは「定期点検整備項目（一般）と給油」に従って定期的に交換してください。

1. エンジンを始動し、数分間運転してから停止します。
2. 車を平坦なところで垂直に立てます。
3. 使用済みのオイルを回収するため、トランスミッションの下にオイルトレイを置きます。
4. オイル注入口のキャップとトランスミッションオイルドレンボルトを取り外し、トランスミッションからオイルを抜き取ります。



1. トランスミッションオイル注入口
2. トランスミッションオイルドレンボルト

5. トランスミッションオイルドレンボルトを取り付け、規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：

トランスミッションオイルドレンボルト：
10 Nm (1.0 m·kgf)

6. 規定量の推奨トランスミッションオイルを注入してから、オイル注入口のキャップを取り付けてしっかりと締めます。

推奨オイル：

(9-1 ページ参照)

オイル容量：

0.50 L

JCA10452

注 意

- クラッチの滑りを防ぐため（トランスミッションオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。
- トランスミッションに異物が入らないように注意してください。

点検整備

7. エンジンを始動し、数分間運転してトランスミッションオイルの漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。

冷却水

JAU20070

冷却水量の点検

JAUM1294

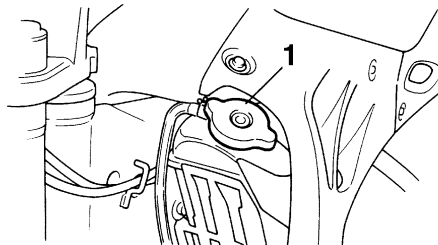
1. 車を平坦なところで垂直に立てます。

JWA10381



警告
エンジンが高温になっているときには、決してラジエーターキャップを開けないでください。

2. ラジエーターキャップを取り外し、ラジエーター内の冷却水量を点検します。



1. ラジエーターキャップ

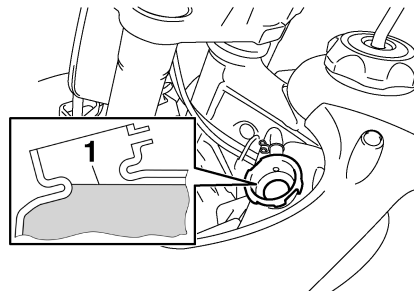
要 点

- 冷却水量はエンジンの温度によって変化するため、点検はエンジンが冷えているときに行ってください。

- 冷却水量を点検するときは、車が垂直に立てられていることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。

要 点

冷却水は規定クーラントレベルまでなければなりません。冷却水量はエンジンの温度によって変化します。



1. 規定クーラントレベル

3. 冷却水量がこのレベルより低い場合、冷却水を補充し、ラジエーターキャップを取り付けます。

JCA10472

注 意

- クーラントが入手できない場合は、蒸留水か水道水（軟水）を代用してください。硬水や塩水はエンジンを傷めますので使用しないでください。

- クーラントの代わりに水を使用した場合は、できるだけ早くクーラントと交換してください。水のままですと、冷却装置が凍結や腐食から保護されないこととなります。
- クーラントに水を加えた場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でクーラントの不凍液含有量を確認してください。放置すると不凍効果が低下することになります。

要 点

エンジンがオーバーヒートした場合、7-29ページの説明を参照してください。

JAUM1313

冷却水の交換

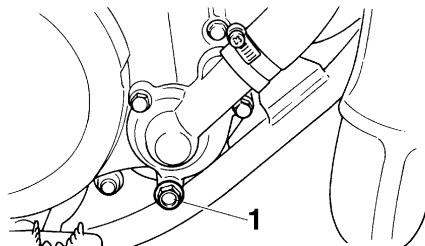
1. 車を平坦なところで垂直に立て、必要に応じてエンジンを冷まします。
2. 使用済みの冷却水を回収するため、エンジンの下にトレイを置きます。

JWA10381

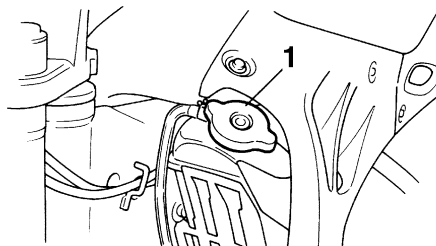
警告

エンジンが高温になっているときには、決してラジエーターキャップを開けないでください。

3. 冷却水ドレンボルトとラジエーターキャップを取り外し、冷却水を排出します。



1. 冷却水ドレンボルト



1. ラジエーターキャップ

4. 冷却水が完全に排出されたら、冷却システムをきれいな水道水で洗います。
5. ドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

要 点

ワッシャーに損傷がないか点検し、必要に応じて交換します。

締め付けトルク：

ドレンボルト：

10 Nm (1.0 m·kgf)

6. 冷却水をラジエーターに、いっぱいまで注入します。

不凍液／水道水の混合比：

1:1

推奨不凍液：

ME-7 ヤマハ純正ロングライフクーラント

冷却水量：

ラジエーター容量（全水路）：

0.54 L

7. ラジエーターキャップを取り付け、エンジンを始動し、数分間運転して止めます。
8. ラジエーターキャップを取り外して、ラジエーター内の冷却水量を点検します。必要に応じて冷却水を規定クーラントレベルまで補充し、ラジエーターキャップを取り付けます。
9. エンジンを始動し、冷却水の漏れがないかを点検します。もし、冷却水が漏れていたらヤマハ販売店で冷却システムの点検を受けてください。

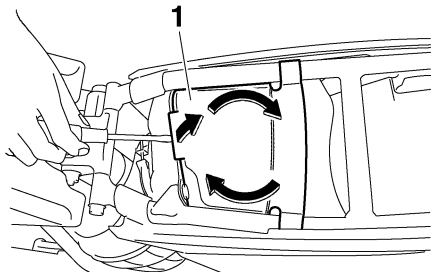
点検整備

JAU41433

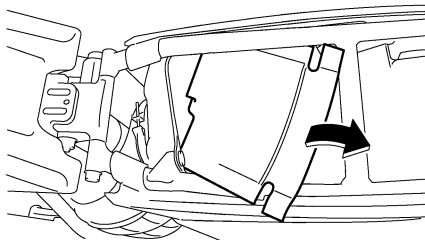
エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃または必要に応じて交換してください。

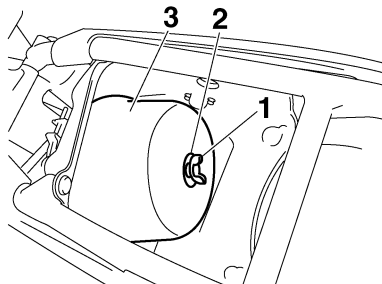
1. シートを取り外します。（4-6 ページ参照）
2. 図のようにエアクリーナーケースカバーを取り外します。



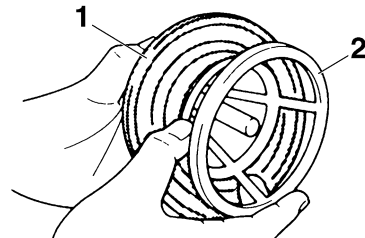
1. エアクリーナーケースカバー



3. ウイングボルトとワッシャーを外し、エアクリーナーエレメントを取り外します。

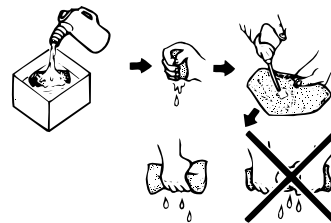


1. ウイングボルト
2. ワッシャー
3. エアクリーナーエレメント
4. エアクリーナーエレメントフレームからエアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーエレメントフレーム

5. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。



6. ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

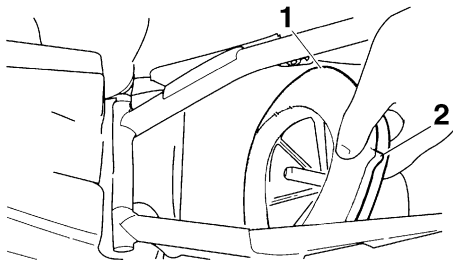
要 点

エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、たれる程にはしないでください。

指定オイル：

ME-R フィルターオイル

7. エアクリーナーエレメントをエレメントフレームにかぶせます。
8. エアクリーナーエレメントを突起部が上になるようにエアクリーナーケースに取り付け、ワッシャー、ウイングボルトを取り付けます。



1. エアクリーナーエレメント
2. 突起

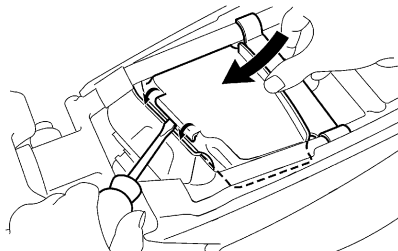
JCA10481

注 意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。

- エアクリーナーエレメントを取り付けなままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩擦が激しくなります。

9. もとの位置にエアクリーナーケースカバーを取り付けます。



10. シートを取り付けます。

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてユーザーでも調整できます。

JCA10550

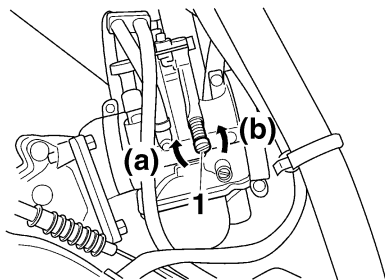
注 意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

エンジンアイドリング回転数の調整

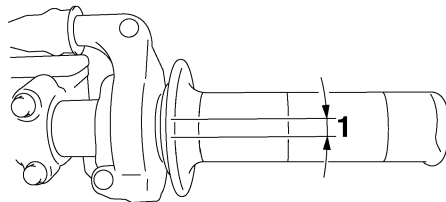
エンジンアイドリング回転数は、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. エンジンを始動し、完全に暖まるまで運転します。
2. スロットルストップスクリューを回して、可能な限り低いエンジン回転数にします。
3. エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。



1. スロットルストップスクリュー

スロットルケーブルの遊びの調整



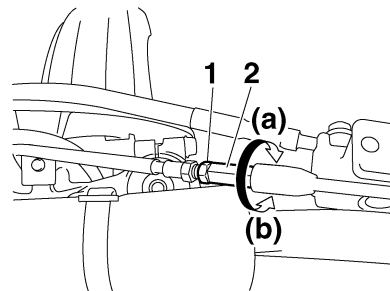
1. 遊び

スロットルケーブルの遊びは、スロットルグリップのツバの外周部分で 3.0–5.0 mm です。スロットルケーブルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

スロットルケーブルの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スロットルケーブルの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルケーブルの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

3. ロックナットを締め付けます。

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

警告

- 空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で(タイヤの温度と外気温が同じ時)に行ってください。
- タイヤ空気圧は運転者の体重、走行速度と走行状況を考慮して調整してください。

タイヤ空気圧：

前輪：

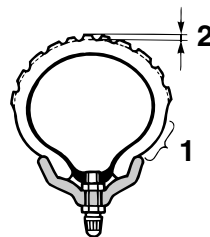
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

後輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

JAU41821

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。

JCA15580

注意

- ビードストッパーはきちんと締め付けてください。ビードストッパーがゆるんでいるとタイヤの空気圧が低いときにタイヤがリムから外れるおそれがあります。
- バルブステムが直立になるようにしてください。バルブステムが傾いているのはタイヤがリムの元の位置からずれていることを示しています。タイヤを動かしてバルブステムが直立するようにしてください。

タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：

4.0 mm

タイヤの情報

この車はスポークホイールとチューブタイヤを装備しています。

JWA10461

警告

- 前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。
- ヤマハが、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのもです。

前輪：

サイズ：

YZ85 70/100-17 40M

YZ85LW 70/100-19 42M

メーカー／型式：

DUNLOP/D739FA

後輪：

サイズ：

YZ85 90/100-14 49M

YZ85LW 90/100-16 52M

メーカー／型式：

DUNLOP/D739

⚠ 警告

- 過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、制御不能になるおそれがあります。
- タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

スポークホイール

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。
- タイヤの交換をした後は、まず「ならし運転」をしてタイヤ表面に最適な特性が発揮出来るまでスピードを出し過ぎないでください。

アクセサリと交換部品

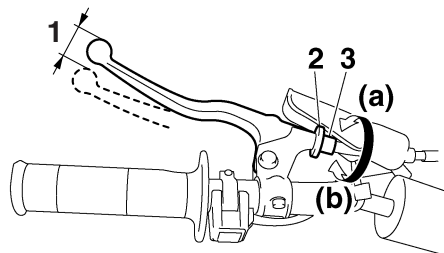
JWA14481

⚠ 警告

アクセサリや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

JAU22032

クラッチレバーの遊びの調整

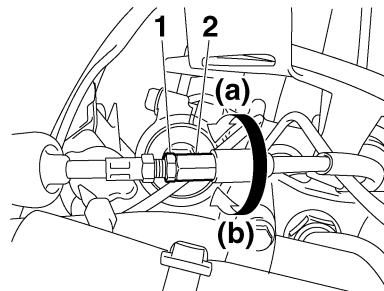


1. 遊び
2. ロックナット (クラッチレバー)
3. アジャスター

クラッチレバーの遊びは 10.0–15.0 mm で、図に示す通りです。クラッチレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. クラッチレバー部のロックナットをゆるめます。
2. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、アジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、アジャスターを (b) 方向に回します。
3. 上記の説明でクラッチレバーの遊びの量が調整できる場合は、ロックナットを締め付けてください。遊びの量が調整できない場合は、以下の手順で調整を行ってください。

4. クラッチレバー部のアジャスターを (a) 方向にいっぱいまで回して、クラッチケーブルをゆるめます。
5. クラッチケーブル部のロックナットをゆるめます。

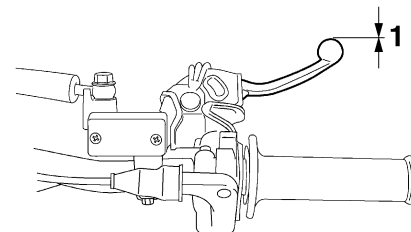


1. ロックナット (クラッチケーブル)
2. アジャスター

6. クラッチレバーの遊びを増やしたいときはクラッチケーブル部のアジャスターを (a) 方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときはクラッチケーブル部のアジャスターを (b) 方向に回します。
7. 両方のロックナットを締め付けます。

JAU37912

フロントブレーキレバーの遊びの点検



1. 遊び

フロントブレーキレバーの遊びはありません。もし遊びがあった場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

JWA14211

警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、ブレーキ油圧システムの中に空気が混入しているおそれがあります。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入した場合は、ヤマハ販売店でエア抜きを行ってください。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入すると、ブレーキの性能を低下させ事故の原因となります。

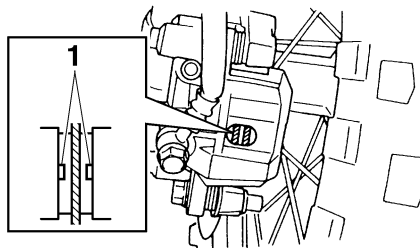
シフトペダルの点検

シフトペダルがスムーズに動くか、乗車前に毎回点検してください。スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

フロントおよびリヤブレーキパッドの点検

フロントおよびリヤブレーキパッドは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。

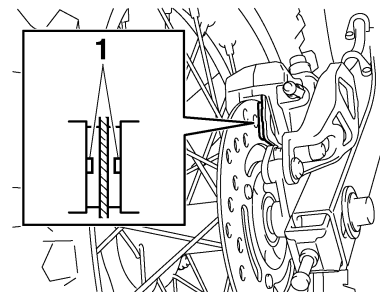
フロントブレーキパッドの点検



1. インジケーター

フロントブレーキパッドはウェアインジケーターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を点検するには、ブレーキをいっばいに作動させてインジケーターの示す位置を確認します。インジケーターがブレーキディスクに達したらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

リヤブレーキパッドの点検



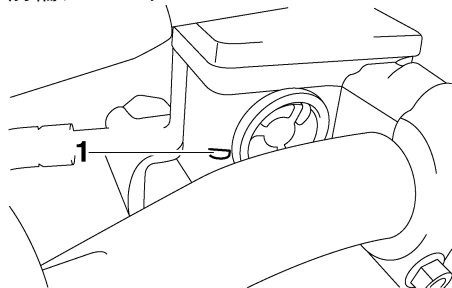
1. インジケーター溝

リヤブレーキパッドはインジケーター溝を備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を点検するには、インジケーター溝を確認します。インジケーター溝がブレーキディスクに達したらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

ブレーキ液量の点検

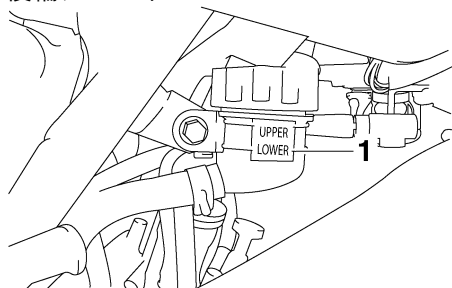
JAU22580

前輪ブレーキ



1. ロアレベル

後輪ブレーキ



1. ロアレベル

ブレーキ液が不足していると、ブレーキ系統に空気が入ることがあり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

乗車する前に、ブレーキ液がロアレベルより上にあることを確認し、必要に応じて補充します。ブレーキ液量が少ないときは、ブレーキパッドの摩耗やブレーキ系統に液漏れが起きていることがあります。ブレーキ液量が少ない場合はブレーキパッドが摩耗していないか、ブレーキ系統に液漏れがないかを確認してください。

次の注意事項を守ってください：

- ブレーキ液量を点検するときは、必ずブレーキリザーバータンクの上面が水平になるようにしてください。
- 指定品質のブレーキ液を使用してください。指定外のブレーキ液を使用すると、ゴムシールが劣化し、液漏れやブレーキ性能の低下を招くことがあります。

指定ブレーキ液：

BF-4 (DOT 4)

- ブレーキ液は同じ種類のものを使用してください。異なる種類のブレーキ液を混ぜると有害な化学反応が生じ、ブレーキ性能の低下につながるおそれがあります。
- ブレーキ液を補充するときは、ブレーキリザーバータンクに水が入らないように注意してください。水が入るとブレーキ液の沸点が大幅に下がり、ベーパーロックを招くことがあります。
- ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を劣化させることがあります。液がこぼれたら必ず、すぐに拭き取ってください。

ブレーキ液の交換

JAU22721

「定期点検整備項目（一般）と給油」の要点で指定する時期にヤマハ販売店でブレーキ液の交換を行ってください。また、ブレーキマスターシリンダーとキャリパーのオイルシールならびにブレーキホースは下に示す時期または損傷や漏れを発見したら交換してください。

- オイルシール：2年毎に交換します。
- ブレーキホース：4年毎に交換します。

ドライブチェーン

JAU22760

ドライブチェーンの点検

JAU41410

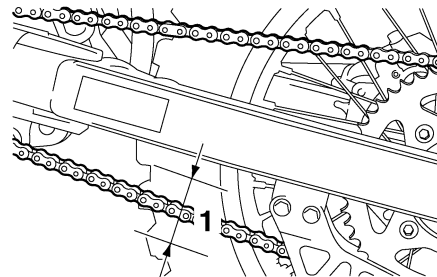
1. サイドスタンドを使用して、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、シートに荷重を掛けずに、リヤクションが伸びきった状態で行います。

2. ギヤをニュートラルに入れます。
3. リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
35.0-45.0 mm



1. ドライブチェーンのたわみ量

4. 点検の結果、調整が必要な場合は、以下の手順で調整を行ってください。

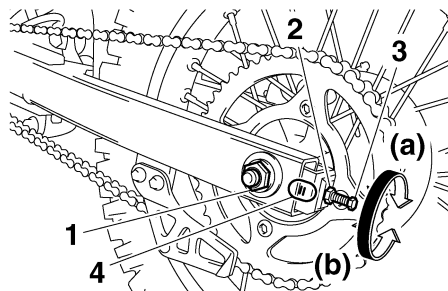
JAU41481

チェーンの張り調整

1. アクスルナットとロックナットをゆるめます。
2. チェーンを張るにはアジャスターを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

チェーンブラーを左右均等に締め込みます。（刻み目盛りを左右同位置にします。）



1. アクスルナット
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

JCA10571

注意

ドライブチェーンの遊びが正しく調整されていないとエンジンなどの重要な部品に過負荷が発生し、チェーンの滑りや破損が生じるおそれがあります。これらを予防するため、ドライブチェーンのたわみ量は規定の量に保つようにしてください。

3. 調整後、両方のロックナットおよびアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

- ロックナット：
16 Nm (1.6 m·kgf)
- アクスルナット：
90 Nm (9.0 m·kgf)

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、MEスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-180 チェーンオイルを給油します。

点検整備

JAU41842

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動の状態を、乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していて、スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：

ME-180 ワイヤークリース

JWA10711

警告

ケーブルの OUTERハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU23111

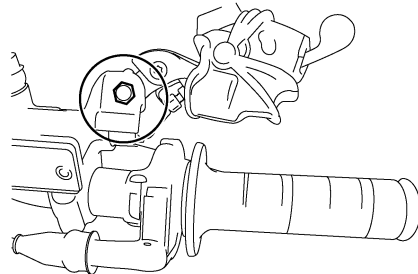
スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に注油してください。

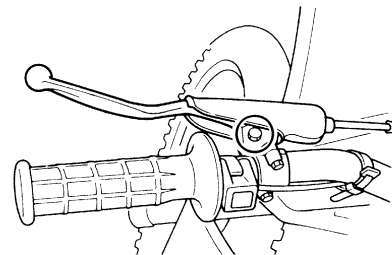
JAU23142

ブレーキおよびクラッチレバーの点検と注油

ブレーキレバー



クラッチレバー



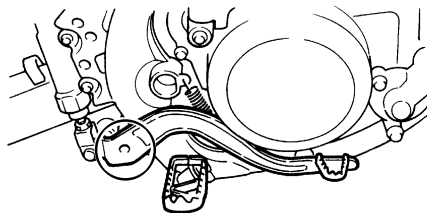
ブレーキとクラッチレバーの作動は乗車前に毎回点検し、必要に応じてレバーの支点到注油してください。

推奨する潤滑剤

ブレーキレバー：
シリコングリース G30M
クラッチレバー：
ヤマハグリース B

ブレーキペダルの点検と注油

JAU23182



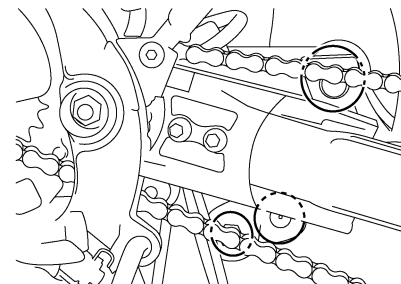
ブレーキペダルの作動は乗車毎に点検し、必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。

推奨する潤滑剤

ブレーキペダル：
ヤマハグリース B

リヤサスペンションの注油

JAU23250



リヤサスペンションの取り付け部は「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定された時期に注油してください。

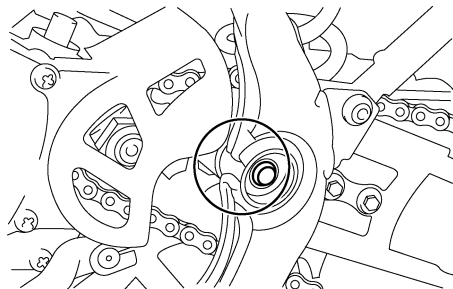
推奨する潤滑剤：

ヤマハグリース B

点検整備

JAUM1650

スイングアームピボットの注油



スイングアームピボットは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAU23272

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

JCA10590

注意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

JWA10751

外観の点検

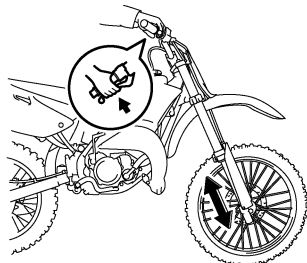
警告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. フロントブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに圧縮し、弾力があるか確認します。



JAU23283

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりとすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

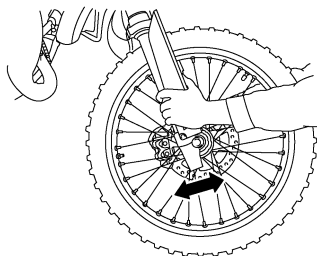
1. エンジンの下部にスタンドを置いて、前輪を浮かせます。（7-25 ページ参照）

JWA10751

**警告**

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



JAU23290

ホイールベアリングの点検

フロントおよびリヤのホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

JAU24350

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要がある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

点検整備

フロントホイール

JAU24360

フロントホイールの取り外しかた

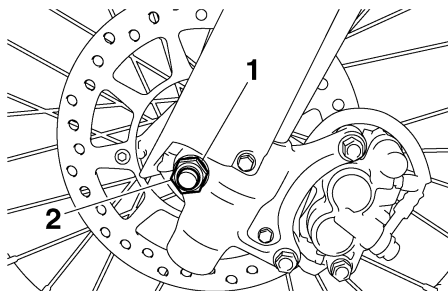
JAU41341

JWA10821

⚠ 警告

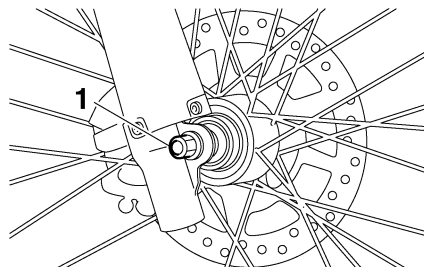
- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. アクスルナットをゆるめます。



1. ワッシャー
2. アクスルナット

2. フロントホイールを地面から持ち上げます。(7-25 ページ参照)
3. アクスルナットとワッシャーを取り外します。
4. ホイールアクスルを引き抜いて、フロントホイールを取り外します。



1. ホイールアクスル

フロントホイールの取り付けかた

JAU41420

1. フロントフォークの間にホイールを入れて持ち上げます。
2. ホイールアクスルを右側から差し込みます。
3. フロントホイールを下げて地面に接地させます。
4. ワッシャーとアクスルナットを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

アクスルナット：
70 Nm (7.0 m·kgf)

リヤホイール

JAU25080

リヤホイールの取り外しかた

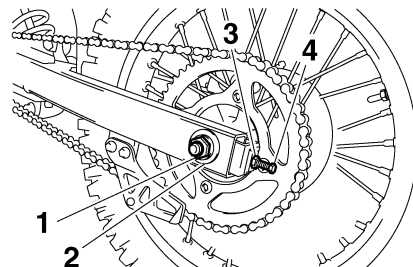
JAU41312

JWA10821

⚠ 警告

- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. アクスルナットをゆるめます。
2. リヤホイールを地面から持ち上げます。(7-25 ページ参照)
3. スイングアーム両側のロックナットとアジャスターをゆるめます。
4. アクスルナットとワッシャーを取り外します。



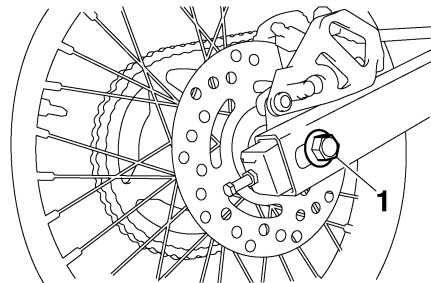
1. アクスルナット
2. ワッシャー
3. ロックナット
4. アジャスター

- ホイールを前方に押して、チェーンをリヤスプロケットから取り外します。

要 点

- ドライブチェーンが取り外しにくいときは、まずホイールアクスルを取り外し、ホイールを前方にずらし、ドライブチェーンのたるみを大きくして、取り外してください。
- ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

- ブレーキキャリパーを保持したまま、ホイールを少し持ち上げ、ホイールアクスルを外します。



1. ホイールアクスル

要 点

ホイールアクスルの取り外しには部品が損傷しないようにソフトハンマーを使用することをおすすめします。

- ホイールを取り外します。

JCA11071

注 意

ホイールを取り外した状態で、ブレーキをかけないでください。ブレーキパッドが閉じてしまいます。

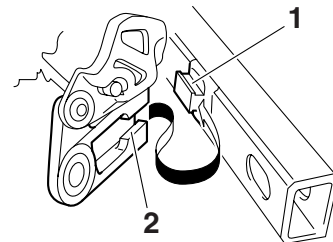
JAU41323

リヤホイールの取り付けかた

- 右側からホイールアクスルを差し込み、ホイールとブレーキキャリパーブラケットを取り付けます。

要 点

- ブレーキキャリパーブラケットの溝を、スイングアームのリテーナーに合わせて組み付けてください。
- ホイールを取り付ける前に、ブレーキパッドの間にすき間があることを確認してください。



- リテーナー
- 溝

- チェーンをリヤスプロケットに取り付けます。
- ワッシャーとアクスルナットを取り付け、リヤホイールを下げて地面に接地させます。
- チェーンの張り調整を行います。(7-20ページ参照)
- 両方のロックナットおよびアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：

16 Nm (1.6 m·kgf)

アクスルナット：

90 Nm (9.0 m·kgf)

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、イグニッションシステムのトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。

次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。

部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高つくことがあります。

トラブルシューティングチャート

始動不良またはエンジン性能の低下

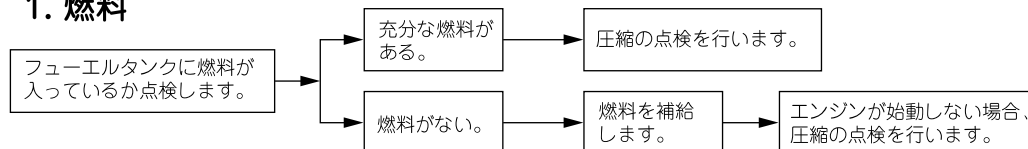
JWA10840



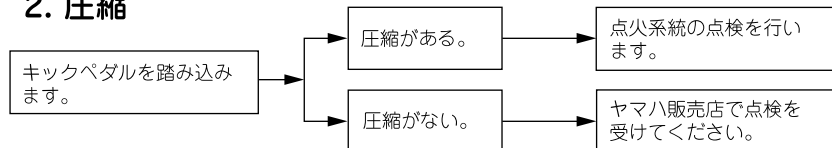
警告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。

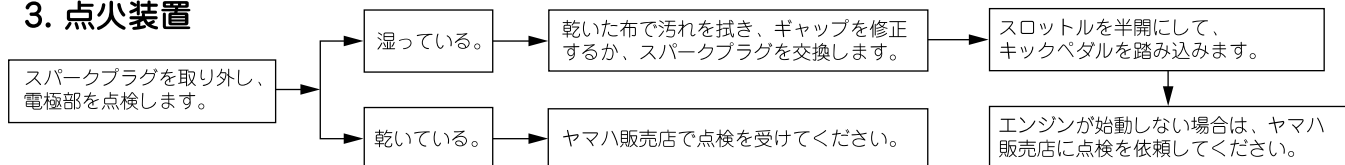
1. 燃料



2. 圧縮



3. 点火装置



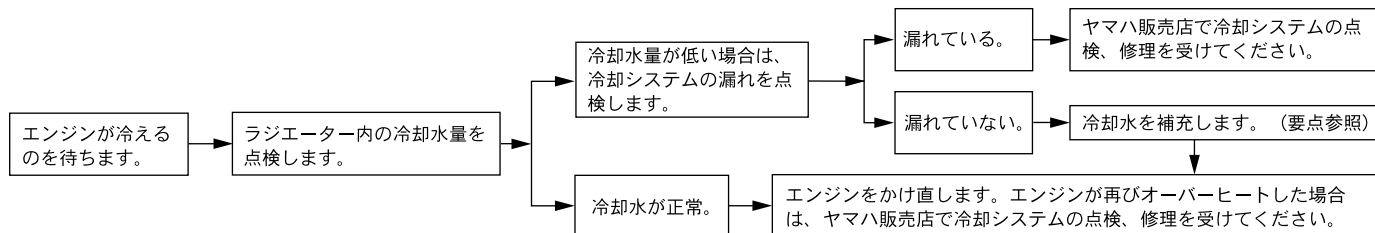
点検整備

エンジンオーバーヒート

JWAT1040

⚠ 警告

- エンジンおよびラジエターが冷えるまでラジエターキャップを外さないでください。高温の冷却水や蒸気が勢いよく吹き出し、重傷を負うおそれがあります。ラジエターキャップを取り外すときは、エンジンが冷えるのを待ちます。
- タオルなどの厚手の布をラジエターキャップにかぶせ、キャップをもどり止めまで反時計方向にゆっくり回します。このようにして、内部の圧力を徐々に抜きます。そして、シューシューという音がしなくなったら、キャップを押しながら反時計方向に回し、取り外します。



7

要 点

推奨クーラントの入手が困難な場合は、水道水を一時的に入れておき、出来るだけ早めに推奨クーラントに入れ替えてください。

お車の手入れ

JAU41354

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カプラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落とししてください。

清掃

JCA10771

注意

- 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると損傷します。柔らかい清潔な布やスポンジを使用し、中性洗剤と水で清掃してください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、ブリーザーホース、ベントホース
- ウィンドシールドを装備している車両について：強力なクリーナーや固いスポンジは、曇りや傷の原因となりますので使用しないでください。プラスチック用コンパウンドの中には、ウィンドシールドを傷付けるものがあります。あらかじめ目立たない場所で試してからご使用ください。ウィンドシールドに傷がついた場合は、洗車したあとで、試用して確認済みのプラスチック用コンパウンドを使用してください。

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかいスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を2～3分間かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10791

注意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮が吸収性のある布で水気をよく拭き取り、乾かします。
2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐため ME-180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。

お車の手入れと保管

4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。
6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA11131

警告

- ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。
- 必要ならブレーキディスククリーナーなどでブレーキディスクとブレーキパッドを清掃し、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。

JCA10800

注意

- スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、拭き残しのないようにしてください。
- ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。
- 研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。

要点

アフターケア用品についてはヤマハ販売店にご相談ください。

保管のしかた

JAU41513

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。

JCA10810

注意

- 水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。
- 錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. “OFF” 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを“OFF”の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。
4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。
 - a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。

- b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
- c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。(次の手順中、スパークプラグで放電されます。)
- d. スターターでエンジンを数回、回します。(シリンダー壁にオイルを付着させます。)
- e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10951

警告

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグの側方電極を確実に接地（アース）させてください。

- 5. 全てのケーブル、全てのレバーとブレーキペダルの作動部に注油します。
- 6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。
- 7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

アフターケア用品について

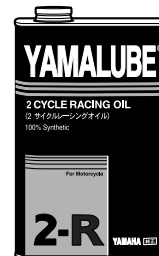
大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28081

ヤマラube 2-R

熱安定性に優れた全合成油（エステル系）をベースに、清浄性、熱安定性、高温清浄性、及び耐焼付き性において極めて優れた性能を発揮し、長時間に渡り高い潤滑性を保持し、フリクションロスの低減によりエンジン出力の向上を図ったレース専用オイルです。

JAU42140



ME-7

水冷専用：過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。

JAU28170

お車の手入れと保管



ME-R フィルターオイル

JAU28190

ヤマハコンペティションモデル専用開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本 MX ラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。



ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



ME-180 チェーンオイル

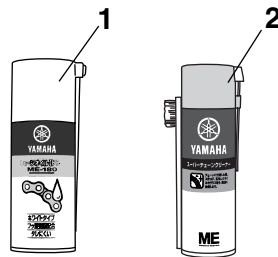
JAU28220

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。

JAU28200



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

ギヤオイル

JAU28270

極圧性、酸化安定性に優れ、油膜強度が高いギヤオイルです。アワ立ちもきわめて少ないため、ベアリングの腐食や摩耗を防ぎます。



JAU41781

ヤマハグリース B

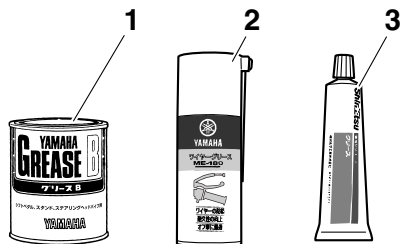
リチウム石けん基のグリースで、耐水、耐熱、耐漏れ性、せん断安定性に優れた万能タイプです。

ME-180 ワイヤーグリース

各ワイヤーを潤滑、保護します。土、泥、ほこり、水などの悪条件に威力を発揮します。

シリコングリース G30M

熱酸化安定性・耐久性に優れ、広い温度範囲で使えるグリースです。油圧式ドラムブレーキおよびディスクブレーキに最適です。



1. ヤマハグリース B
2. ME-180 ワイヤーグリース
3. シリコングリース G30M

JAU42150

ME-R マッドプルーフ

- オフロード走行前に前後フェンダー、サイドカバー等泥付着の可能性がある部分にスプレーし、走行時の泥や粘土質の付着を抑制。走行後、水洗いで簡単に落とす事ができます。
- 倒立バルブの採用で逆さまでも使用でき、溶剤が残りません。



製品仕様

寸法：

全長：

YZ85 1821 mm
YZ85LW 1903 mm

全幅：

758 mm

全高：

YZ85 1161 mm
YZ85LW 1205 mm

シート高：

YZ85 864 mm
YZ85LW 904 mm

軸間距離：

YZ85 1258 mm
YZ85LW 1286 mm

最低地上高：

YZ85 351 mm
YZ85LW 393 mm

重量：

車両重量：

YZ85 71.0 kg
YZ85LW 73.9 kg

性能：

最高出力：

21.3 kW@12000 r/min (29.0 PS@12000 r/min)

最大トルク：

17.26 Nm@10500 r/min (1.76 kgf-m@10500 r/min)

エンジン：

原動機種類：

2 ストローク 水冷

気筒数・配列：

単気筒

総排気量：

84.7 cm³

内径 × 行程：

47.5 × 47.8 mm

圧縮比：

8.20 :1

エアフィルターエレメント：

湿式エレメント

クラッチ形式：

湿式多板

ミッション・チェンジ方式：

常時かみ合式 6 速

始動方式：

キック式

車体：

フレーム形式：

セミダブルクレードル

キャスター：

YZ85 26.30°
YZ85LW 27.00°

トレール：

YZ85 88.0 mm
YZ85LW 106.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：

45.0°

ハンドル切れ角（右）：

45.0°

燃料：

フューエルタンク容量：

5.0 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：

油圧式シングルディスクブレーキ

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：

油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式：

種類（前）：

テレスコピック

種類（後）：

スイングアーム（リンク式）

緩衝方式：

ショックアブソーバータイプ（前）：

コイルスプリング / オイルダンパー

ショックアブソーバータイプ（後）：

コイルスプリング / ガスオイルダンパー

フロントタイヤ：

種類：

チューブ有り

サイズ：

YZ85 70/100-17 40M
YZ85LW 70/100-19 42M

メーカー / 銘柄：

DUNLOP/D739FA

リヤタイヤ：

種類：

チューブ有り

サイズ： YZ85 90/100-14 49M YZ85LW 90/100-16 52M	定期交換時： 0.50 L	リヤディスクブレーキ：
メーカー / 銘柄： DUNLOP/D739	エンジン分解時： 0.55 L	パッド厚さ (内側)： 3.7 mm
トランスミッション：	クーリングシステム：	使用限度： 1.0 mm
1 次減速比： 65/18 (3.611)	冷却水総容量： 0.54 L	パッド厚さ (外側)： 3.7 mm
1 速： 27/11 (2.454)	ドライブチェーン：	使用限度： 1.0 mm
2 速： 32/17 (1.882)	たわみ量： 35.0–45.0 mm	指定ブレーキフルード： BF-4 (DOT 4)
3 速： 26/17 (1.529)	ブレーキレバーとブレーキペダル：	ホイールトラベル：
4 速： 22/17 (1.294)	フロントブレーキレバー遊び： 0.0 mm	ホイールトラベル (前)： 275.0 mm
5 速： 26/23 (1.130)	ブレーキペダル遊び： 0.0 mm	ホイールトラベル (後)： YZ85 282.0 mm YZ85LW 287.0 mm
6 速： 25/25 (1.000)	ケーブルとレバーの遊び：	タイヤ空気圧 (冷間時)：
2 次減速比： YZ85 47/14 (3.357) YZ85LW 52/14 (3.714)	スロットルケーブル遊び： 3.0–5.0 mm	前輪： 100 kPa (1.00 kgf/cm ²)
エレクトリカル：	クラッチレバー先端部遊び： 10.0–15.0 mm	後輪： 100 kPa (1.00 kgf/cm ²)
点火方式： CDI	フロントディスクブレーキ：	点火タイミング：
エンジンオイル：	パッド厚さ (内側)： 4.0 mm	基準点火時期 (B. T. D. C.)： 0.90 mm
指定オイル： ヤマルーブ 2 R	使用限度： 0.8 mm	スパークプラグ：
トランスミッションオイル：	パッド厚さ (外側)： 4.0 mm	メーカー / 型式： NGK/BR10EG
指定オイル： ヤマハギヤオイル	使用限度： 0.8 mm	プラグギャップ： 0.5–0.6 mm
	指定ブレーキフルード： BF-4 (DOT 4)	

ユーザー情報

ID 番号

JAU40790

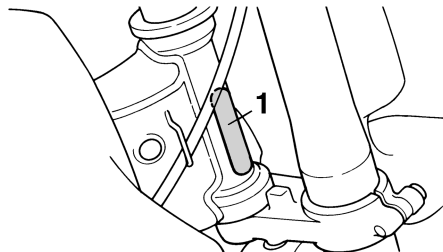
車台番号、モデルラベルの情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

車台番号：

モデルラベルの情報：

車台番号

JAU26400



1. 車台番号

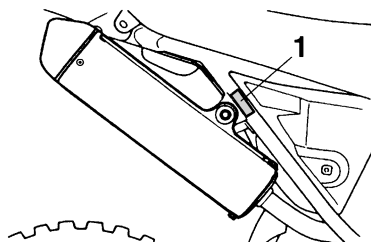
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要 点

車台番号は自分の車であることを証明するために使用します。

モデルラベル

JAU26460



1. モデルラベル

モデルラベルは図に示す部分に貼り付けてあります。この情報を指定の空欄に控えておいてください。この情報はヤマハ販売店に部品を注文するときに必要になります。

二輪車を廃棄する場合は？

JAU36640

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

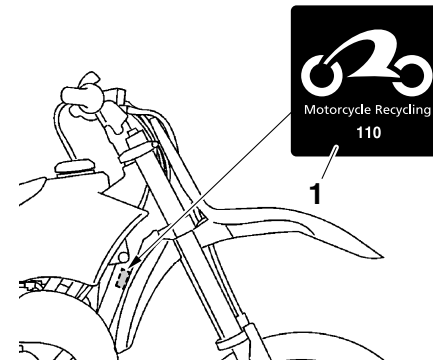
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。このモデルでは、サービスマニュアルの代わりとして、オーナーズサービスマニュアルを紹介しています。

オーナーズサービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

YZ85/YZ85LW オーナーズサービスマニュアル 部品番号：
QQS-CLT-204-5PA

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-207-5PA

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2008.06-0.3×1 CR
(J)